



ニューヨークで地方の魅力を発信 New York Times Travel Show への出展

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 大沼 翔司 (滋賀県派遣)

New York Times Travel Show とは

2019年1月25日から27日までの間、ニューヨークのマンハッタンでニューヨークタイムズトラベルショー (NYTTS) が開催されました。NYTTSとは、ニューヨークタイムズ社が主催する北米最大規模の旅行博で、176カ国から約700の団体が出展し、旅行業界関係者や報道関係者、一般消費者など約3万5,000人が来場するイベントです (2019年実績)。

当事務所は、日本政府観光局ニューヨーク事務所 (JNTO) が設置したジャパンプースにおいて、関西観光本部や秋田犬ツーリズムといった地方の観光振興を目指す団体、JR東海や東武鉄道などの鉄道事業者、プリンスホテルや東急ホテルなどのホテル事業者、HISなどの旅行事業者など、合計17団体と共同して日本の観光情報をPRしました。



大勢の来場者でにぎわったジャパンプース

ジャパンプースのほかにも、JTBが設置したブースに群馬県、新潟県、長野県、岐阜県の4県が出展し、猿の温泉で有名な長野県の地獄谷野猿公苑や、合掌造りの集落で知られる岐阜県の白川郷など、それぞれの地方の観光情報を紹介しました。

また、東京観光財団は単独でブースを構え、東京の観光情報の提供と併せて伝統的な鉛細工のデモンストレー

ションを行い、多くの来場者が鉛細工の美しさに魅入っていました。



長野県ブースで説明に聞き入る来場者

御朱印を軸として地方の魅力を発信

出展に当たっては、地方への観光にも関心を持ってもらいたいと工夫しました。単にパンフレットを配るだけでは効果が薄いと考え、東京から大阪を周遊するゴールデンルート以外に観光客をいかにして誘致できるのかを考えました。そこで、各地域にある神社仏閣に関心を持ってもらい地方にも周遊してもらおうと、御朱印に着目しました。神社仏閣を紹介する手作りのリーフレットを作製し説明に活用するとともに、本物の朱印帳も披露したところ、「御朱印が独特で美しい。スタンプラリーのようで楽しそう」といった声が上がりました。



朱印帳を模した手作りのリーフレット

